

事例 (平成19年度伝達研修会資料より)

Xチームの先発A投手は1回を投げて1点を奪われB投手と交代した。
 3回に同点としたXチームは、救援投手Bが5回に逆転されたため、6回より先発投手Aが再度登板した。
 7回、Xチームは2点を挙げ逆転し、その裏を零点に抑えXチームが勝利を収めた。
 勝利投手をA投手としたが、それでよいか。

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	計
X	0	0	1	0	0	0	2	3
Y	1	0	0	0	1	0	0	2

A
B
A

(解答)

ポイント : **先発投手が勝利投手になるためには4回以上の投球回数が必要**である。
 この4回とは先発したときの投球回数と再出場したときの投球回数を合算した回数である。

スコアリングマニュアル19-(1)-

ポイント : 相手チームがリードしているとき、救援した投手が投球している間に自チームが逆転してそれを最後まで維持したときは、その投手が勝利投手となる。

スコアリングマニュアル19-(1)-

先発投手Aは先発時の1回と、再出場時の2回を合算して、3回しか投げていない。
 しかし、A投手はリードされた6回から再出場し、7回の任務中に自チームが逆転した投手である。

ポイント : 先発投手が再出場し、ポイント に該当した場合は、合算した投球回数が、4回以上に達しなくても勝利投手になる

スコアリングマニュアル19-(1)- 追記

よって、先発投手Aは3回しか投球していないが、勝利投手としてよい。

投手名	投球回数	打者	打数	被安	失点	自責	被犠	与四	与死	三振	投球数	勝敗
A	3 /3	13	13	3	1	1	0	0	0	4	40	
B	4 /3	15	14	2	1	1	0	1	0	1	50	

Q1 : XチームのA投手は4回まで投げ、リリーフしたB投手は5回以降を投げた。
 Xチームは5回表に2点を挙げて逆転勝利をつかんだ。勝利投手はB投手でよいか。

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	計
X	0	0	0	0	2	0	0	2
Y	0	1	0	0	0	0	0	1

A
B

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	計
X	0	0	0	0	2	0	0	2
Y	0	1	0	0	0	0	0	1

A
B

A 1 : XチームのA投手は4回まで投げている 責任投球回数はクリア!
A投手が退いた回は5回裏であって、**5回表はA投手の任務中**である
A投手の任務中に自チームが逆転し、最後までリードを維持したときは、A投手を勝利投手とする。

投手名	投球回数	打者	打数	被安	失点	自責	被犠	与四	与死	三振	投球数	勝敗
A	4 /3	15	15	3	1	1	0	0	0	4	50	
B	3 /3	13	12	2	0	0	0	1	0	1	40	



ベンチ入りスコアラーの資格制度

スコアラーとして、ベンチに入る場合は**公式記録員の資格が必要**です。
(選手・監督・コーチが兼務する場合を除く)

ベンチ入りスコアラーは公式記録員のワッペンを着用してください

平成20年度、公式記録員認定会の予定	
平成20年11月23日(日)	会場：泉南市
平成20年12月 日(日)	会場：
平成21年 1月25日(日)	会場：豊中市
上記以外に臨時認定会がある場合もあります。	